

伊賀市上野西部 公民館だより



第 160 号

平成 28 年 8 月 15 日

編 集 発 行: 上野西部公民館

所 在 地: 伊賀市上野福居町

上野西部地区の人口 世帯数 1,468 人口 3,283 人(内男 1,563・女 1,720) 職 28.7 末 現在

ひゅーまんフェスタ 2016

7 月 17 日(日) ひゅーまんフェスタ 2016、～人権のユニバーサルを目指して～が、上野丸之内「ハイトピア伊賀 5 階」にて開催されました。「在日ブラジル人からのラブコール」と題し武蔵大学 社会学部 教授 アンジェロ・イシさんが多文化について講演。ブラジルはハワイと並び多くの日系人が移住していることから、ワールドカ



ップでの日本選手への歓迎を紹介、日本でも外国人に対する、法の壁、心の壁を、なくす事を、映像を交え紹介。体験イベントで、南米の楽器チャクチャの製作体験、乾燥させた木の実を色あざやかな紐でつないで、強く振ると「チャクチャク」と、静かに振るとカラカラと心地よい音が響き印象深い音色で、あ

わせて南米の民俗楽器のサンポーニャやチャランゴなどが展示されていました。またバリアフリー体験では、競技用のロードレース用車椅子やテニス用車椅子の展示・乗車体験。学習イベントは日本語と外国人のコミュニケーション講座や障がい者スポーツについて、他に人権啓発・活動紹介パネル展なども開催されました。



流しソーメン大会 健康・福祉・スポーツ部会

8月7日(日)夏の陽射しが照り付けるなか、恒例の流しソーメン大会が、【健康・福祉・スポーツ部会】主催で開催されました。



会場の上野西部地区市民センターには親子連れが集まり130名余りの参加となりました。まずは竹割体験。軍手をはめてスタッフの指導でナタと金槌で少しずつ竹を

割ります、節をとったら、仕掛けをスタッフが組立、完成したら、めんつゆ・薬味をもらって、「いただきま〜す♪」

暑い中での冷たいソーメンは、格別です。ひとしきり食べた後は、スイカ割に、お楽しみ券。冷えたスイカをいただいて、参加者全員、楽しく過ごしました。

上野中分団・自主防災・合同訓練

8月7日(日)伊賀市消防団夏季訓練が各地域で一斉に開催されました。西部地区を担当する中分団は、上野西小学校グラウンドで開催。今回は、新しい試みとして、【観覧から参加へ！】体験・一部訓練への合同訓練となりました。中分団が管轄する上野西部・上野南部・東部・久米・小田、5地区の各自治協・自主防災から合計100名余りが参加、消防団員と合わせ200名余りでの開催となりました。自治協参加者が観覧する中、団員が整列、通常点検と、訓練が始まります。続いての合同訓練では、伊賀市防災マップの説明の後、団員の説明を受けながら、救出体験、地下の防火水槽から、ポンプ給水、ホース送水の説明、防火服を着ての放水体験等、



普段の防災訓練にないメニューが用意され、貴重な体験が得られました。あと団員による見事な一斉放水には盛んな拍手が送られました。

市民夏の賑わいフェスタ 2016 8月21日(日)

交通規制区間 本町通り(菅原神社 東交差点～上野西町 交差点)

銀座通り(ハイトピア伊賀 交差点～上野恵美須町 交差点)

上野中町、中之立町通り 一部通行規制

交通規制時間 午前10時～午後10時

伊賀市消防団 三重県操法大会 優勝

7月16日(土) 平成28年度三重県消防操法大会が県消防学校(鈴鹿市石薬師町)にて、三重県・三重県消防協会の主催で開催されました。県下全域から各消防団12隊・1000人余りが参加しました。伊賀市・名張市地区から出場した、伊賀市消防団は構成する各10分団より推薦された団員による選抜チームを結成、多くの訓練を重ね、小型ポンプ操法の部に出場、日頃の訓練の成果を発揮、見事に動作で優勝しました!

消防操法大会

消防団員の技術の向上と士気の高揚を図るため、「消防操法の基準」に定められた操法の要領に従い各消防団が、いかに早くかつ正確にポンプの放水を行うかを競うものです。2年に1度消防活動の充実・発展を目的として開催しています。消防団員は日頃「ポンプ車操法」と「小型ポンプ操法」の2種類の消防用機械器具の取り扱い訓練を行っています。

10月14日(金)南長野運動公園(長野市・オリンピックスタジアム)で開催される第25回全国消防操法大会に三重県代表で出場です。声援を贈りましょう。



七夕笹飾りコンクール

銀座商店街で7月29日から8月6日まで恒例の「七夕笹飾りコンクール」が開催。地域の自治会、福祉会等で飾



り付けられた笹飾りが一斉に展示され、銀座通を彩りました。最終日、川に見立てた「銀座川」に流され、回収されました。

俳画サークル



煌星俳句会

大野利江俳評

糸を吐く魔性の花や烏瓜 からすうり

炊 規夫

この花は日暮に白い糸を吐き出し、のちゆつくりと己が身の内へその糸を行儀良くしまう。ひとときのマジックを見せる、まさに妖しい花。

風跡を追ひ追ひ駆くる青田風

谷口 恂

青田に次々に風跡を残しつつ駆ける風。「追ひ追ひ」のリフレインがよく効いていて律儀に追う青田風を、しつかり捉え詠まれている。

ばいかも
梅花藻や中山道に沿ひ流る

安屋 宣子

しゅく
中山道の宿に梅花藻の川の美しい名所がある。宿から宿へと流れをつなぎ、旅人の心を癒してくれる梅花藻。

糸とんぼ己が影なくたぢろげり

田畑 寛一

ほこりの如き糸とんぼのかそけなさを「とんぼ」と表記されたため、この句全体が生かされ揺るぎないものになっている。

ひやくひろ
百尋に百花爆ぜたり揚花火

辻野 和彦

百尋の夜空に百花の花火が爆ぜる。百を二つ揃えたことで連発する花火を連想させる。お腹にひびく音まで聞こえ小気味良い。

影も無く街モノクロに酷暑かな

百上 進一

物影、人影が無くなるのは午後0時。街はユラユラとモノクロになる。コク暑をコク明に描かれた納得の一句。

巣燕の重なってゐる子沢山

富田 まり

一読して明解の一句。私の家の近くの巣から落ちた子燕を育ててあげようと持ち帰りとりあえず鳥かごに入れベランダへ置いた。親燕が取り戻そうと一晩中鳴きに來たのだ。

初咲を亡夫とおもふ白蓮

中森美年子

蓮の花が初めて咲いた。その純白の蓮を亡夫と思われたとは、仲が良く、おやさしいご主人であつたと思われる。

